

【UD 関西・研究会レポート】 第 17 回研究会

文責 木下幸夫

■肌寒くなってきた 11.9(土)。関西学院初等部にて『第 17 回 UD 研究会 in 関西』が開催されました。本来は 10.26 に開催予定だった第 17 回研究会。天候の影響で順延となりました。北は秋田から南は沖縄まで、100 名以上の先生方のご参加で、熱気に帯びた一日となりました。日程変更や、満席で参加が叶わなかった先生方も多くおられました。最近では申込み受付告知から 2～3 日で満席となっております。UD 関西支部としましては、有り難いと思うと同時に、大変申し訳なく感じております。どうぞ、本研究会の HP をご注目ください。



(<http://www.udkansai.net/>)

【① 公開授業】

■関西支部代表の村田辰明先生(関西学院初等部副校長)による 4 年生の社会科授業、『事故からくらしを守る』でした。子どもたち同士が「仲良くなりながらかしくなっていく」ことが村田先生の授業や学級経営の特長。本クラスの子どもたちは 1 年間社会科専科としてかかわって、この日が 49 回目の授業でした。

■授業はいきなり、通学ルート上にある「手塚治虫記念館前交差点」の写真提示から始まりました。写真を出したり、消したり(ブラインド)子どもたちが興味の世界にグッと引き込まれて行く授業の導入は、さすがです。子どもたちに、「手塚治虫記念館前交差点」で発生した事故件数(今年)を予想させました。実は 0 件。事故発生件数が少ない理由を問ひかけ、さらに子どもたちは予想を深めていきました。ここまで、わずか 3 分間の展開です。



■事故件数が少ない(11/9 時点で 0 件)の理由を子どもたちは、写真を見ながら考えました。

「警備員さんがいるから。」

「ガードレールがあるから。」

「音の出る信号があるから。」

「点字ブロックがあるから。」

「横断歩道があるから。」…など、様々に思考を巡らせる子どもたち。



次第に子どもたちの問いは、「信号の時間の長さ」に焦点化されていきました。

■「信号の長さ(時間)は何秒くらいでしょう。」と村田先生。

実際に動画を見て、計測をしました。

- ・青信号 → 37 秒
- ・赤信号 → 91 秒 「え。意外と長い！」
- ・青信号 → 30 秒 「短くなるんだ！」
- ・赤信号 → 81 秒 「何だか、きまりが見えてきたかも！」
- ・青信号 → 43 秒 「あれ…。分かんない!？」

子どもたちの問いは、次第に、「なぜ信号の長さが変わるのだろうか」という次のステージへと焦点化されていきました。問いの難易度は、ステップアップされていきます。村田先生は、「ペアで話し合いなさい」と指示を出されました。最初はよくわからなかった子どもたちも、友だちの考えを聴くにつれて、それがヒントとなり、「あ!」「なるほど!」などの声があちこちで上がり始めます。子どもたちは、次のような予想を次々と発表していきました。

「朝夕は通勤する人、帰る人がいるので、信号は長い。昼は人が少ないので、信号は短いと思う。」

「人がたくさん（信号待ちで）待っている時は、なるべく渡らせるために青の時間を長くしていると思う。」

「車の量が、多かったら横断歩道の信号を短くし、少なかったら横断歩道の信号を長くしているのでは…。」

■青信号が長くなると渋滞が起きやすくなることに気付いた子どもたちは、信号の時間の長さは、「車の数に合わせている」ということを見出しました。同時に子どもたちは、一つの疑問に行き着きました。

「なんで車の数がわかるのかな。不思議。」

という疑問です。そこで、村田先生は子どものつぶやきをひろって問いかけました。「そうだよね。なぜ、車の数がわかるのだろう。」黒板には「なんで？ 不思議？」の文字。板書に子どものつぶやきをいかします。子どもたちの追究(予想)はさらに次のステージへと進んでいきます。

「センサーがついているのではないかな…」

村田先生は、話し合いが深まってきた絶妙なタイミングで写真提示をされます。それは、センサーを拡大して撮った写真でした。

「やっぱり!」

■授業の終末、子どもたちは次のような言葉で学びをまとめていました。

「手塚治虫記念館前交差点は、いろいろな〇〇〇で事故を防いでいる」この、「〇〇〇」の部分には工夫についての言葉を、自分で考えて入っていました。

「手塚治虫記念館前交差点は、いろいろな人やものの工夫で事故を防いでいる」

…など。



■村田先生は、ここでさらに学習を広げます。「他の通学路も、手塚治虫記念館前交差点と全く同じ防ぎ方になっていますよね。」と揺さぶりました。すると子どもたちが「違います。私の家の近くには警察の人がいて・・・」など反論を始めました。その反論を受けて、村田先生は、「通学路には手塚治虫記念館前交差点とは違う工夫があるようですね。では、次の時間はどのような人やものに守られているかを調べに行きましょう。その時に信号の長さや警備員の方のように時間が変わると変化する人やものがあるので、それにも注意しながら調べましょう。行ってみたいですか。」と話しました。子どもから自然と「行きたい」「やったあ」の声があがりました。

■村田先生は、単に一つの交差点を学んで学習を終えるのではなく、他の交差点にも発展的に考えられる視点(他の交差点にはどんな人やものの工夫があるのか)を与えて授業を終えられました。まさに、社会的な見方・考え方を養う視点でした。

【② 研究協議会】

■久木田雅義先生(関西学院初等部)の軽快なテンポや笑いがありつつも、ポイントは外さない名司会。村田先生の授業説明からスタートしました。

「社会的な見方・考え方を養うということはどういうことか」についてのお話がありました。「人やものの様々な工夫」は、ゴミの学習をしていても、消防の学習をしていても、他の学習(あるいは日常生活で事象に出合ったときなど)に転移してはたらく「見方・考え方」を養っていることについてのお話でした。また、「社会科授業はあいまいなので、先生方、授業づくりに悩まれておられますよね。」と村田先生。学習内容を焦点化することが大切なお話もありました。



「他に転移する社会的な見方・考え方」は、子どもたちの視点の抽象度がどんどんあがっていくことを意味します。しかし、45分の授業レベルではより具体的な事象と子どもたちは向き合います。この「抽象と具体の行き来」を、クラス全員の子どもたちができるようになるような工夫が教員には求められます。そこで極めて重要な視点が「授業のUD研究」という視点であることが分かりました。授業者村田先生の明快なお話でした。

【焦点化】

「なぜですか」「気づいたことはありますか」など、抽象的な発問が増えてしまいがちな社会科授業。確かに、抽象的に事象を捉えられる力を子どもたちに獲得させたい。しかし一方で、焦点化された具体的な発問も必要。それが、クラス全員に確かな力を身に付けさせることにつながる。

【視覚化】

社会科は元々、ビジュアルな教科。教科書を開いただけでも多くの資料が目に入る。しかし、いつも教師から資料を与え続けられるだけでは力はつかない。最初の資料で、資料をみる視点を子どもたちに獲得させる。その獲得した視点を活用して、次の資料を探したり、話し合いを重ねたり、社会見学をさせたりする。

【共有化】

子どもたちの先行知識や社会経験値の差は大きい。そこを埋める手立てがなければ、授業でさらに差が開く。

差を埋め、全員の学びを高めていく手立てが必要。「発言の続きを考えさせる」「ヒントを出させる」「発言の再話・再現させる」など、友だちの意見に着目させるような指示・支援。また、それらをシェアさせるための、ペアやグループの活動。授業の最後には、一人一人の表現活動(まとめ)、など。さらに、「発問をスモールステップ化させる」ことも重要。

■さらにパネリストは、本クラスの担任の元山一則先生(関西学院初等部)。元山先生と村田先生のパネルのやり取りを聴きながら、この授業だけでなく一年間の中で、村田先生の細やかな授業準備、元山先生の優しさに満ちた学級経営などがよくみえてきました。また、具体的な子どものノートをプロジェクターで見ながら、4年C組の感動秘話についても、参加された先生方は心を動かされました。

【③ 講演】

■由井菌健先生(筑波大学附属小)は、社会科授業は何のためにあるのか、という視点でお話しになりました。

■「自ら世の中に問いかけ、仲間が幸せになっていく学び。」

「共に問題を解決していく学び。」

「子どもたち一人ひとりが、問い続けることを楽しむ社会科授業。」

とても分かりやすかったです。明日の私たちの社会科授業が変わっていくような、授業づくりの底流に流れる意味をお話くださいました。さらに、5年生や6年生の授業の実際について、実に詳しく実践をお話くださいました。



【④ その他】

■回を重ねるごとに、先生方の注目度が上がっていると感じずにはいられない関西支部の研究会です。特に今回は、村田辰明代表の授業ということもあって、大きな注目を頂きました。

「授業のUD」という研究が全国的な広がりを見せていることに、大きな意味も感じています。子どもたち一人一人の幸せを真剣に考えている教師たちの苦悩と喜びがちりばめられ、教師が学びあい、高まり合おうとする研究会が、UD研究会なのだと思います。

参加者の皆さんは、それぞれの教室の子どもたちの顔を浮かべながら、それぞれの地域に戻っていかれました。

■村田辰明代表の最新刊です。

「社会科授業のUDのヒントを得た！」 「授業づくりだけでなく、学級づくりのコツも見えた！」など、大好評の1冊です。



http://www.amazon.co.jp/%E6%9C%AC/s?ie=UTF8&field-author=%E6%9D%91%E7%94%B0%20%E8%BE%B0%E6%98%8E&page=1&rh=n%3A465392%2Cp_27%3A%E6%9D%91%E7%94%B0%20%E8%BE%B0%E6%98%8E